

<株式会社エフエム東京 第 505 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 6 年 2 月 6 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊尚 委員
松田 紀子 委員	山口 真由 委員
柴崎 友香 委員	

◇欠席委員（1 名）

秋 元 康 委員

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生	代表取締役会長
黒坂 修	代表取締役社長
内藤 博志	取締役編成制作局長
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 健太	編成制作局制作部長
小林 弘幸	編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 180 分／52 分）
TOKYO FM 成人の日スペシャル『玉川徹の「オトナのラジオショー」』
2024 年 1 月 8 日（月・祝）13：00～16：00 放送のダイジェスト

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■「エフエム東京 放送番組基準」の一部変更について

エフエム東京 放送基準の変更についての諮問・答申を行い、委員に承諾を得ました。

【追加の条文】

第 8 章 表現上の配慮

放送内容によっては、SNS 等において出演者に対する想定外の誹謗中傷等を誘引することがあり得ることに留意する。また、出演者の精神的な健康状態にも配慮する。

■2023 年 12 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2023 年 12 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します（調査期間：2023 年 12 月 11 日～17 日）。今回も 6:00～24:00 の週平均におきまして、TOKYO FM はコアターゲット【男女 18～49 才】区分、また【男女 12～59 才】、【男女 12～69 才】の主要 3 区分において、在京首位を獲得することができました。

- ◎【男女 18～49 才】首位 （※単独首位）
- ◎【男女 12～59 才】首位 （※ニッポン放送、J-WAVE と同率首位）
- ◎【男女 12～69 才】首位 （※ニッポン放送と同率首位）

今回の結果は同率も含みますが、当社コアターゲット【男女 18～49 才】、【男女 12～59 才】区分は 22 年 2 月以来 12 期連続首位、さらに個人全体区分の【男女 12～69 才】では 22 年 4 月以来、11 期連続首位と、連続記録を更新することができました。

各年代区分では上記のほか、【M1F1（男女 20-34 才）】【M2F2（男女 35-49 才）】、【男女 20 代】、【男女 30 代】、【男女 40 代】と幅広い年代でも首位を獲得できました。主要区分は今回もトップを維持できていましたが、とりわけ前回まで好調だった【男性 40 代】という聴取ボリューム層、さらに【男性 20 代】といった層において今回は聴取分数の減少によりスコアを大きく下げる結果となり課題を残しました。今後も、取り扱うテーマや演出、選曲などを再確認し、主要ターゲットの更なるスコア向上を目指し、リスナーに向き合ってまいります。

議題 2：番組試聴

【番組名】

TOKYO FM 成人の日スペシャル『玉川徹の「オトナのラジオショー」』

2024 年 1 月 8 日（月・祝）13：00～16：00 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、1月8日（月・祝）に放送した TOKYO FM 成人の日スペシャル『玉川徹の「オトナのラジオショー」』のダイジェストです。昨年9月の敬老の日に放送し、多くの反響を呼んだ『日本一有名な平社員・玉川徹の「定年ラジオショー」』に続く第2弾として今回は生放送で実施しました。リスナーからのメールも紹介しながら、成人の日に、玉川徹が自身の体験談も踏まえ、若い世代へメッセージを送りました。対談パートでは、爆笑問題 太田光、リリー・フランキーを迎え、「オトナとは？」をテーマに笑いと学びのトークを繰り広げました。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○3 時間おしなべて楽しく拝聴した。玉川氏自身も番組内で、前回のラジオで選曲がいいと褒められたと言及していたが、私も新しく聴く曲など、音楽面でも非常に楽しんだ。1 つ気になったのは、「成人の日の特別番組」というタイトルからすると、おそらく新成人をターゲット層として据えたのかなと思うが、新成人に向け、なぜ玉川氏なのかという素朴なそもそも論がどうしても拭えないなということがあった。今の新成人は、高校時代の青春真っ盛りの期間をコロナ禍で全部奪われた世代で、その世代に真摯に向き合ったのか、という疑問となってしまった。敬老の日に放送された「定年ラジオショー」は、玉川氏が定年を迎えたこと、かつ、日本一有名なサラリーマンということで、とても理にかなった起用だったと思うが、新成人が 60 歳の定年後の方の話の聴くことが最適な人選なのかと。

○ゲストの太田光氏、リリー・フランキー氏との対談は聴きごたえがあった。発言も自由で味があり、茶目っ気もたっぷり。「こういう大人ってくすぐられるよね」と思った。太田氏の「大人になって司馬遼太郎の本を乱読するようになって、歴史というものが面白くなって、なんで日本の歴史の教科書って縄文時代から始まるんだろうね」という発言や、そういった大人ならではの楽しみを見つけた人だから、子どもに対して言えることみたいな話も非常に面白く聴いた。リリー・フランキー氏の「大人は子どもの創造物だ」という視点もリリー氏ならではのもの。そういったキーワードがいっぱい出てくるのに、それを上手く拾えなない感じがしてもったいなく思った。例えば太田氏の「自分たちの年代になっても同じことで悩んでいる大人は多分いるし、一生悩むっていうことが続くんですよ」ということをそのままスルーしてしまったところ。そこは玉川氏ならではの感じでググッと寄って行ってほしかった。もっと深く掘り下げ紐解くことで、今のコロナ禍の失われた青春時代を生きている子どもたちにとって刺さってくるのではないかなと思う。

○番組の最後で、吉田明世氏からの「大人とはどういうことでしょうか？」という問いかけに玉川氏が「大人とは子どもでないこと」と発言して、ここでキメるというときに、あまりにもピンとこない言葉が出てきてもったいなかった。玉川氏のキャラクターがテレビで見るとよりはマイルドで優しい人だということは伝わってくるが、玉川氏を起用したのであれば、ビシッと言うところにビシッとしたコメントがすごく欲しかったなど、少し物足りなさを感じてしまった。引き続き、玉川氏を起用するのであれば、そういう彼だからこそ話せるものを引き出せるようにして欲しいと思う。彼のヤンチャな青春時代とかは実際あまり興味なくて、テレビであれだけビシビシ発言しているのであればこそ、ラジオでも締めるところは締める、ということがあればいいと個人的には感じた。

○ゲストパートは大変面白く拝聴した。テレビでの玉川氏も拝見する中で今回の番組で気付いたのは、玉川氏はテレビの人、ということ。それはどういうことかということ、太田氏が「自分は話しているのは世間のみんなが納得してもらえらると思っている」と言うのに対して、玉

川氏は「逆張りだと思っていた」と言う。例えばテレビなどでも大きく取り上げられる事柄に対しての太田氏の発言、ネット界限などでは「それは確かにそうかも」と受け入れられることが多かったりする。しかし、特にワイドショー的なテレビ側の意見では、「驚くべき逆張りの意見」として捉えられている。これは、テレビの世界と、世間とのズレのようなもの。太田氏の発言に対し、「ふーん、ふーん」と頷くだけで、他の委員も突っ込みが物足りないと言っていたが、もしかしたら玉川氏は呆気にとられていたのではないかと思う。テレビの中の方がその外側の大量の意見に触れた時の驚きのようなものはもう少し詳しく聴いてみたかったという思いもあるが、玉川氏がこの反応の鈍さを乗り越えられるとこの番組が面白くなるのではと思う。

○「モーニングショー」という番組内で玉川氏は輝いているが、テレビのスタジオという空間の問題なのか、一旦そこを出てラジオのスタジオに入ってしまうと、なんとなく借りてきた猫みたいになってしまう。テレビでやっていることをそのまま TOKYO FM でやっても違うのは理解する。または、他のメディアに行っても、同じようにわーわー言ってもらったら、それはそれで面白いし人気が出るんじゃないかなと思うので、その辺をもう少し本人自身にも立ち位置を考えてもらいたいのではと思う。

○前回の「敬老の日 定年ラジオショー」の時と同じく選曲はとても良かったが、敬老の日の方が面白いと感じてしまったのは、玉川氏自身が定年ということもあり話の広がりがあったからかと思う。今回は3人のゲストの方が出演していて、それぞれの話はとても興味深くおもしろかったが、3名とも年齢、年代、業界も近い方々だったので、もちろんテレビと出版では違うのでそれぞれ面白いが、成人の日で若い人に向けて、となるともう少し若い人や、女性、表に出ないがスペシャリストなど、違うタイプの人に話を聴くのも良かったのではと思った。

○街頭インタビューで「大人ってどんなイメージですか？」という質問に若い人が「葉巻とブランドー」と答えていて、私が若い頃からずっとそのイメージが続いているのかという面白さがあった。また、一方で耐えるのが大人とか、我慢するもののように捉えている若者が結構いた。その部分に太田氏やリリー氏の話の繋げられたらもっと面白かったと思う。

○リリー氏の「丸ノ内と言えば AV のイメージしかない」という発言は、内容自体がダメということではなく、リリー氏の番組内で聴いていたらとても面白い会話として成立していたと思うが、「新成人」をターゲットとしている番組ということ考えると、これを聴いている新成人がどう受け止めたのか気になった。あと、その発言を受けた玉川氏が微妙な反応になっていて、これはいいのか悪いのか、という空気が伝わってしまって、もっとツッコミを入れたら聴いている人がモヤっとしなかったのでは、という気もした。

○番組の題目に、成人の日を記念するということがあって、若者たちに何か言ってあげるべきということがついて回るので、それを意識すればするほどズレて聴こえてしまった。でも

自分か今、20歳だと想像すると、おじさんたちが話し合っていることを聴くことが、ズレたことも含めて面白いのだろうなという気はする。逆に「若い人に聴かせたい言葉を言ってください」というような飾り言葉のほうがスカスカに聴こえたりもする。玉川氏の声も好きだし、彼がいろいろずらしていくところも含めて面白いと思うので、今後頑張ってもらいたいと考える。

■初の生放送を終えて、反省というかもっとこうしたかったという部分が当然いくつか出てくる。ズバリ指摘していただいたと思っている。今回のゲストについては、玉川氏がリスペクトしていた2人ということもあり、遠慮もありかみ合わないように聴こえてしまったところがあった。予め、制作スタッフが「かみ合わないのを楽しみましょう」と方向づけてあげるべきだったと認識している。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

2月24日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>